

はじめに

PPI 計画・設計研究所は、1988 年秋創立で、今年で 12 年目を迎えています。その間 <元気が出、おもしろく、生きがいを感じる生活環境の創造> を大・テーマに、様々な都市プランニング、環境デザイン、建築設計、そして時にはそれらの空間計画を成立させるためのソフトプランニング（事業プランニング、施設構成、施設管理運営計画など）について、精力的かつ誠意的に取り組んできました。

各々のプロジェクトにおいては、大・テーマにもとづき、多様なコンセプト、アイデアを盛り込み、提案してきたつもりです。おかげさまで、その多くは具体的な事業に反映されますとともに、建築作品として実現するに至っています。

ところで、21 世紀を目前に控え、これからの都市・生活環境に関するプロジェクトは、私が考えてきましたように、より総合的かつ多面的なアプローチを必要としています。20 世紀型のまちづくりは終焉を迎え、新しいパラダイムが模索されていることは明らかです。そこで、PPI の都市・まちづくり系の業務、建築系の業務を、より具体的に、それこそトータルに知っていただくための、PPI からの情報発信・通信紙“P - voice”を発行することといたしました。ちょっと参考になり、気軽に通勤電車の中でも見てみようかな、と思っただけのような内容でお届けたく考えています。また、そこには PPI の業務内容を知っていただくとともに、より厳しい御指摘、御指導もいただければ、さらなる PPI の飛躍の糧になるのでは、とも考えています。

今後ともよろしく、御指導、御支援下さいますようお願いいたします。

2000 年秋 所長 みよし つねたが 庸隆



## Project report 1 : そぶら・貝塚 ほの字の里

～ 小学校跡地を活用した地域密着型山村体験施設  
竣工～

計画対象地に最初に訪れたのは、1997 年の秋のことでした。「なんとどのどかなことか！」と大阪にもまだこのような緑に囲まれた自然が残っていることを懐かしく思ったのと同時に、廃校という現実寂しさも覚えました。

その後、様々な困難(?)を乗り越え、2000 年 4 月に、都市部の人達に身近にある自然や農林業を体験してもらい、都市と農村の交流と山手地域の活性化を目的とした地域密着型山村体験施設が誕生しました。

「ほの字の里」は、今回の計画で建設された「ほの字の館(宿泊施設)」、「ゆの館(温浴施設)」、「ガーデンテラス(バーベキュー施設)」の 3 棟と、既存施設を利用した「げんきの館(体育館)」、「集いの館」などの施設から構成されています。

「ほの字の里」全体の核施設である「ほの字の館」

は、宿泊室、レストラン、木工室、研修室などを備えており、地元産の杉、檜をふんだんに用いた建物です。



ほの字の里全体図(ほの字の里パンフレットより、PPI作成。)

これらの木材は、ほの字の里の運営主体である森林組合の方々と一緒に山々で一本ずつ選び、伐採していきました。100年をゆうに越える大きな年輪が訴えかける悠久の時の流れに感動し、建築計画では、切り出された木々が最も美しく映る姿として、森に整然と立ち並ぶ杉木立を具現化することに努め、エントランスからロビーへ向けて杉木立を喚起させる杉の丸太柱を8本配しました。



ほの字の里全景



上：ほの字の館 木工教室

左：ほの字の館  
エントランスホール

「ゆの館」は「ハダカの森林浴」をテーマに、杉風呂と檜風呂の2つのお風呂（朝夕男女入替）を設けました。また、森林組合と共に計画、施工を行った数百本にも及ぶ竹で囲われた露天風呂は周囲の山並みに向かって広がりをもつのどかなお風呂となりました。さらに、工事中に偶然、掘り出された温泉も加わり、さらに魅力が増しました。ほの字の里でたくさんの体験をした方々に木のもつぬくもりを肌で感じていただき、美しい風景の中で「ほっ」とリラックスしてもえるところとなりました。

ほの字の里には、この他にも炭焼体験ができる「炭焼小屋」や森林浴ができる「森林散策コース」があります。また、子供たちが走り回れるグラウンドやアスレチック、パットゴルフもあります。

4月末オープン後、毎月約1万人の入場者があり、この調子で行きますと、10万人/年は超えるのでは、と予測されます（ちなみに、初期目標は約4～5万人）。

ご家族、お仲間同志では是非一度足を運んでいただき（市内から車で約1時間）、多くの「ほっ」を体験してみてください！



ゆの館外観



露天風呂

### ほの字の里 ご利用案内

#### 宿泊施設「ほの字の館」

料金：大人 1泊2食付 9,200円～

小人 1泊朝食付 4,500円～

室数：和室5（5人部屋4 10人部屋1）

#### 森の浴場「ゆの館」

料金：大人 600円/小人 300円

営業時間：午前7時～午後8時

内容：杉湯、檜湯、各露天風呂あり

#### その他魅力施設

レストラン「彩」、ガーデンテラス（バーベキューテラス）\*

「げんきの館」（バレーボール、卓球他）、木工施設、研修施設など（\*アルコール類可）

（「ほの字の里」内は飲食物の持込みは不可）

#### お問い合わせ先

そぶら・貝塚 ほの字の里

〒597-0111 大阪府貝塚市蕎原 2114 番地

TEL 0724-78-8777 FAX 0724-78-8666

#### 「ほの字の里」がテレビ放映されました！

- ・ワイド ABCDE～す（朝日放送）4/28
- ・NHK ニューススポット関西（NHK）5/31
- ・大阪ほんわかテレビ（読売テレビ）7/9
- ・満点幸せテレビ（大阪テレビ）7/11
- ・りんくう行政アワー（テレビりんくう）5/23～6/19
- ・その他多数

#### こんな新聞・雑誌にも載っています！

- ・朝日新聞、産経新聞など多数
- ・関西まるごと自然遊び Book
- ・るるぶ 大阪おもしろ遊び場ガイド
- ・近畿グリーンツーリズムガイドブック
- ・月刊レジャー産業 2000年7月号 406
- ・掲載雑誌多数！

## Project report 2 : 興人ライフスクエア

～用途を越えて生き続ける躯体再利用 - 建築再生 (リ・ボーン・アーキテクチャ) への試み～

このプロジェクトは、住宅地(興人・山の街/神戸市)の一角に位置していたミニスーパーの撤退に伴ない、その跡地の有効利用としてスタートしました。

初期の段階では集合住宅の可能性について検討を行っていましたが、高齢化を迎えようとしているこの住宅地に対して、開発を行ってきた事業主の積極的な考えで、地域の人々への生活支援サービスを充実させることを目的とした、クリニックゾーンの形成を図ることとなりました。

新しい施設の建設にあたり、残された既存建物に注目し、従来までのように使用用途が終わった時点で簡単に取壊すのではなく、新しい要素・イメージを加えることによって新たな命を吹き込み、生き続けることはできないかをテーマに計画を進めました。

既存建物については、不要なものを全て剥ぎ取り、フレームだけの状態で残しました。当然の事ながら、



左が既存建築。右が新築棟。



2Fの屋上いこいの広場。右側は眼科。

屋根、外壁に至るまでことごとく手を加え、クリニック施設にふさわしいイメージを創り出しました。既存建物から少し離れた形で敷地の余裕のある部分に新しい建物を配し、既存建物との間にスクエア(広場空間)を作り出しました。この既存建物と新たな建築とで生み出された空間は本計画の最も重要となる部分で、シンボリックな空間となっています。具体的にはクリニックゾーンへの入口となるエントランス前階段広場、2階の屋上いこいの広場として計画しています。

新築棟に関しては既存建物の直線的な構成に対して、曲線を用いたデザインとし、新しい施設としての顔を創り出しています。

現在この建物には、整形外科、内科、眼科、調剤薬局、和菓子喫茶があり、旧近隣センターが生活支援センターとしてリ・ボーンし、新たな交流の場となっています。(平成10年1月オープン)

(写真:松村芳治/HIROBA 98年11月号掲載)

## トピックス

### (1) 豊中市 - 中学・高校生のためのまちづくり講座開催

'97年から始まった「豊中市 - 中学・高校生のためのまちづくり講座」も今年で4回目になりました。この講座は、豊中市のまちづくり専門家会議(審議会)委員である三好が、中学・高校生という社会に対して正義感あふれるヴィヴィッドな世代を対象に、痩せ細りがちな「公共性」を少しでも復権しようという発案と、豊中市まちづくり支援室の全面的な賛同を得て始まりました。過去3年間においては、実際に自分の足でまちに出かけ、まちの見方や感じ方をグループ毎に討論し、最終日に発表・まとめを行うプログラムでした。

今年度(期間:10/1~12/23)は市独自の企画で、少し趣向を変えて「まちのドラマづくりにチャレンジ」というテーマに基き、参加者自らディレクター、レポーター、カメラマン、タイムキーパーなどの役割で、まちにビデオカメラを持って出かけ、約10分間のドラマを作成するという、プロ顔負けの講座になっています。最終日(三好はゲストとして参加)に、各グループが3ヶ月かけてつくった「まちのドラマ」を発表することになっており、発表を終えた中学・高校生がどのように変化をし、今後成長していくのが楽しみです。

## (2) 大阪大学学生課題を通じて

PPI 所長・三好は、大阪大学工学部建築工学科の非常勤講師を依頼されており、今年で4年目になります。今年の担当は、3回生前期の<建築設計>で、課題は「Project report 2 : 興人ライフスクエア」を少し変形した内容でした。「21世紀は、既存施設（環境も）をどう再生（リ・ボーン）させるかが建築上の大きなテーマになる。このような課題設定は、おそらく阪大で初めて」（三好）とのこと。

## (3) 講演「生活と住まい」

10月20日、桃山学院大学経済学部の生活経済論の講座で、三好が大学生と社会人を相手に“生活と住まい”と題しての講演を行いました。

## (4) 垂水集合住宅プロジェクト(神戸市垂水区)

PPI が設計・監理を行った集合住宅「コージースクエア垂水海岸通」が2000年8月に竣工致しました。

この集合住宅に関する記事が雑誌 BRUTUS《2000年8/1号》に掲載されました



所在地 / 神戸市垂水区  
JR 山陽線垂水駅より徒歩10分 物件名 / コージースクエア垂水海岸通  
1階部分住戸面積 / 76.05㎡ 間取り / 2LDK + フリールーム 価格 / 3,749万5,000円 規模 / 地上5階29戸 築年 / 2000年8月 問合せ / コージースクエア垂水海岸通販売センター (フリーダイヤル) 0120-307-521

### 段差つきりビングが00年代の海沿い集合住宅の基本

昭和50年前後に建てられた、少々レトロな建物の多い塩屋、舞子エリアで久々のスタイリッシュな新築集合住宅。ポイントは階段6段分の段差を設けたリビングとダイニング。これにより、窓際だけでなく、ダイニングの広い範囲からのビーチビューが実現した。高い天井を利用したロフトも使い勝手よし。その上、テラスを越えれば即砂浜！の立地とは。

## 第32回 PPI フォーラム

2000年6月14日に貴多野乃武次氏(阪南大学国際コミュニケーション学部国際観光学科教授)を迎えて、第32回

PPI FORUM を開催致しました。当日は、多数の参加者の中、氏の著書である「ファンタジー・シティ ラスベガス 7つの法則」と100枚以上のスライドを用いて「シ・シティ(罪の町)」と言われたラスベガスが今日「エンターテインメント・キャピタル」に変貌を遂げていく様子を氏の体験を通じて克明に語っていただきました。

以下にラスベガスを例にファンタジー・シティをつくるための、氏が唱える7つの法則をご紹介します。



貴多野先生

1. ファンタジー・シティには「テーマ」がある
2. ファンタジー・シティには「エンターテインメント」がある
3. ファンタジー・シティは「デザイン性」が豊かである
4. ファンタジー・シティには「リスクレス・リスク」がある
5. ファンタジー・シティは「24時間都市」である
6. ファンタジー・シティは「モジュール式アトラクション」で構成される
7. ファンタジー・シティは「自存」する

## 編集後記

秋らしくなってきました今日この頃いかがお過ごしでしょうか？ PPIの情報発信紙であるP-voice(PはPPI、PROJECT、PLANNING、PRODUCE、PROGRESS...のP)創刊にあたり、日頃の業務を改めて客観的に捉え、考えていることや情熱を出来るだけ簡単・簡潔に伝える、ということに心がけました。どうでしょうか、伝わりましたでしょうか？ 業務内容によりましては、守秘義務があるためお伝えできないものも有りますが、オープンな情報を中心に、これからも紙面を充実させ、熱き思いを伝えていきたいと思えます。

次号(数ヶ月後)は、PPIが計画・設計しました最近の集合住宅プロジェクトを中心にお送りする予定です。お楽しみに。尚、P-voiceの内容に関するお問合せは近藤まで。

## 編集・発行

(株)PPI 計画・設計研究所

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-2-2

トーンアップビル7F

TEL 06-6949-0901 FAX 06-6949-0902

E-mail: ppi-osaka@pop07.odn.ne.jp

発行責任者: 三好庸隆 編集担当者: 近藤秀樹

